

家庭内における米の消費に関する一考察 I

大 矢 祐 治

周知のように、重化学工業に偏重した日本経済の展開は、産業構造、生活構造、地域差等の不均等性をもたらしている。かかるなかで、食生活内容も例に漏れず顕著な変化がみられる。その典型的なものの一つとして、肉類、乳製品等の畜産物の消費量が著しく増加してきているのに対して、逆に米の消費量が大幅に減少してきていることである。すなわち、米の食生活に占めるウェートが大きく低下してきており、これを国民1人当たりの供給熱量でみると、米の比率は昭和35年度当時48.3%であったものが、40年度に44.6%、45年度36.9%、50年度34.2%、54年度には30.5%にまで低下してきている(表1)。さらに、米の1人当たりの消費量も、37年度の118.3Kgをピークに、減少を続け、40年度に111.7Kg、45年度95.1Kg、50年度88.1Kg、54年度には、79.8Kgに低下している(表2)。さらに今後もその傾向はますます進み、昭和65年には65Kgまで落ち込んで行くものと見通されている(農林水産省)。このような傾向に対して、国民の食生活が洋風化・多様化・高度化、さらには平準化として表現されている。そこで、消費の低下傾向にある米自体の消費構造が、世帯単位でみた場合にはどのような現状にあるのか、総理府統計局「昭和54年全国消費実態調査報告」の結果をもとに、1世帯(世帯員2人以上)年平均1ヵ月間における米の購入(消費)状況を、年間収入階層別・地域別・世帯主の職業別に数的一考察を行なってみた。

(1) 年間収入階層別米消費構造

食料、主食、米類の支出金額は、それぞれ上層になればなるほど、金額そのものは多くなるが全消費支出金額に占めるウェートは逆に低下している。さらに、米類のウェートは、全階層共に全消費支出の3.66~1.68%の範囲内にあり、ウェートそのものは著しく低い状態に置かれていると言える(表3)。

表4は年間収入階層別にみた米の購入量とその購入平均価格を示したものである。これによると、階層が上層になればなるほど、全購入数量、及び購入平均価格が高くなり、逆に標準価格米は低くなっている。すなわち、世帯単位では、高収入になるにつれて、量的に増大され、しかもそれは高品質・高価格に特化されているものであり、かつて「貧乏人は麦を食え!」という暴言があったが、それと意味を同じにした階層間格差が歴然としているのである。なお全世帯平均は全購入数量が13.83Kgで、購入平均価格が385.7円であり、その位置は400万円階層に属している。

表1. 国民1人・1日当たり供給熱量

		穀類	うち米	うち小麦	いも類	でんぷん	でんぷん質計	豆類	野菜	果実	肉類	鶏卵	牛乳・乳製品	魚貝類	砂糖類	油脂類	その他	合計
実数 (Kcal)	35年度	1,438.6	1,105.5	250.6	81.5	59.9	1,580.0	104.4	84.1	28.9	27.5	26.9	35.9	86.6	157.2	107.0	53.2	2,289.7
	40	1,397.5	1,075.7	281.9	53.6	76.4	1,527.5	97.5	89.4	38.8	53.7	49.4	60.7	89.8	196.3	161.0	46.9	2,411.0
	45	1,287.7	914.3	298.5	38.8	74.8	1,351.3	104.4	93.4	53.4	83.1	63.5	81.0	91.3	282.7	228.9	45.1	2,478.1
	46	1,219.9	892.7	300.0	40.0	71.9	1,331.8	105.4	95.5	52.4	92.8	63.3	81.8	95.3	280.2	237.8	44.2	2,480.5
	47	1,202.9	879.9	299.7	40.6	73.3	1,316.8	103.7	94.1	61.8	100.9	62.1	83.6	95.3	294.0	258.1	44.2	2,514.6
	48	1,197.0	872.8	300.1	39.1	71.9	1,308.0	103.0	87.9	60.3	108.1	61.5	85.1	98.3	294.9	269.7	44.7	2,521.5
	49	1,186.8	862.8	302.1	37.8	69.1	1,293.7	99.7	89.4	56.4	109.0	59.9	83.7	100.3	276.7	277.2	42.6	2,488.6
	50	1,174.6	844.4	305.3	38.7	69.5	1,282.8	99.1	86.7	58.1	111.6	59.8	85.9	103.1	262.6	276.6	39.8	2,466.1
	51	1,163.7	829.3	308.4	39.8	81.3	1,284.8	94.2	87.5	55.0	117.4	60.9	88.1	105.2	265.5	283.0	41.3	2,482.6
	52	1,136.7	801.9	309.1	41.8	85.1	1,263.6	90.1	90.8	56.9	126.9	61.9	92.2	103.3	279.8	288.8	39.5	2,493.8
	53	1,120.3	784.6	308.3	42.6	87.2	1,250.1	89.2	90.4	56.3	134.3	63.5	95.8	105.0	265.7	310.6	38.9	2,499.6
	54	1,101.0	765.1	309.0	42.1	89.6	1,232.7	90.5	91.0	56.3	143.3	62.8	99.8	101.8	267.4	320.6	39.1	2,505.4
構成比 (%)	35年度	62.8	48.3	10.9	3.6	2.6	69.0	4.5	3.7	1.2	1.2	1.2	1.6	3.8	6.9	4.6	2.3	100.0
	40	58.0	44.6	11.7	2.2	3.2	63.4	4.1	3.7	1.6	2.2	2.0	2.5	3.7	8.2	6.7	1.9	100.0
	45	49.9	36.9	12.0	1.6	3.0	54.5	4.2	3.8	2.2	3.3	2.6	3.3	3.7	11.4	9.2	1.8	100.0
	46	49.2	36.0	12.1	1.6	2.9	53.7	4.2	3.9	2.1	3.7	2.6	3.3	3.8	11.3	9.6	1.8	100.0
	47	47.9	35.0	11.9	1.6	2.9	52.4	4.1	3.7	2.4	4.0	2.5	3.3	3.8	11.7	10.3	1.8	100.0
	48	47.5	34.6	11.9	1.6	2.9	51.9	4.1	3.5	2.4	4.3	2.4	3.3	3.9	11.7	10.7	1.8	100.0
	49	47.7	34.7	12.1	1.5	2.8	52.0	4.0	3.6	2.3	4.4	2.4	3.4	4.0	11.1	11.1	1.7	100.0
	50	47.6	34.2	12.4	1.6	2.8	52.0	4.0	3.5	2.4	4.5	2.4	3.5	4.2	10.7	11.2	1.6	100.0
	51	46.9	33.4	12.4	1.6	3.3	51.8	3.8	3.5	2.2	4.7	2.5	3.5	4.2	10.7	11.4	1.7	100.0
	52	45.5	32.1	12.4	1.7	3.4	50.6	3.6	3.7	2.3	5.1	2.5	3.7	4.1	11.2	11.6	1.6	100.0
	53	44.8	31.4	12.3	1.7	3.5	50.0	3.6	3.6	2.3	5.4	2.5	3.8	4.2	10.6	12.4	1.6	100.0
	54	43.9	30.5	12.3	1.7	3.6	49.2	3.6	3.6	2.2	5.7	2.5	4.0	4.1	10.7	12.8	1.6	100.0

資料：農林水産省「食料需給表」

表2. 国民1人・1年当たり供給純食料

		穀 類	うち米	う ち 小 麦	いも類	でんぷん	豆 類	野 菜	果 実	肉 類	鶏 卵	牛乳・ 乳製品	魚貝類	砂糖類	油脂類
実 数 (Kg)	35年度	149.6	114.9	25.8	30.5	6.5	10.2	99.7	22.3	5.0	6.3	22.3	27.8	15.1	4.3
	40	145.0	111.7	29.0	21.4	8.3	9.4	109.6	28.5	9.2	11.6	37.4	29.2	18.7	6.6
	42	139.0	103.4	31.6	17.7	9.0	10.0	116.2	33.0	10.8	11.4	43.3	30.9	21.1	8.2
	43	135.2	100.2	31.3	17.4	8.7	9.9	124.9	38.3	10.9	12.5	45.7	32.2	21.9	8.6
	44	131.5	97.1	31.3	16.2	8.5	10.1	120.2	36.6	12.3	14.8	47.3	30.7	24.2	9.1
	45	128.5	95.1	30.8	16.2	8.1	9.8	115.6	38.2	13.4	13.8	50.1	31.8	26.9	9.5
	46	126.9	93.1	30.9	16.5	7.8	10.0	119.2	38.0	15.2	14.8	50.7	33.2	26.8	9.8
	47	124.8	91.5	30.8	16.5	7.9	9.8	117.7	44.4	16.3	14.5	52.7	33.4	28.0	10.6
	48	124.2	90.8	30.9	16.1	7.8	9.7	111.9	43.6	17.1	14.4	52.7	34.2	28.1	11.1
	49	123.0	89.7	31.1	15.7	7.5	9.4	113.7	41.4	17.2	14.0	51.8	34.9	26.3	11.4
	50	122.2	88.1	31.5	16.0	7.5	9.3	111.3	43.0	17.9	14.0	53.3	34.9	25.1	11.4
	51	120.6	86.2	31.7	16.5	8.7	8.9	111.5	39.8	18.7	14.3	54.5	35.6	25.3	11.7
	52	117.9	83.4	31.8	17.4	9.1	8.5	115.6	41.5	20.3	14.5	57.0	34.9	26.7	11.9
	53	116.1	81.6	31.7	17.9	9.4	8.4	115.2	40.7	21.4	14.9	59.3	35.5	25.3	12.8
	54	114.5	79.8	31.9	17.7	9.7	8.5	113.4	41.4	22.5	14.7	61.9	34.5	25.6	13.2
増減 (Kg)	53～54年度	△ 1.6	△ 1.8	0.2	△ 0.2	0.3	0.1	△ 1.8	0.7	1.1	△ 0.2	2.6	△ 1.0	0.3	0.4
増減 (△) 年率 (%)	35～40年度	△ 0.6	△ 0.6	2.4	△ 6.8	5.0	△ 1.6	1.9	5.0	13.0	13.0	10.9	1.0	4.4	8.9
	40～45	△ 2.4	△ 3.2	1.2	△ 5.4	△ 0.5	0.8	1.1	6.0	7.8	5.0	6.0	1.7	7.5	7.6
	45～50	△ 1.0	△ 1.5	0.5	△ 0.2	△ 1.5	△ 1.0	△ 0.8	2.4	6.0	△ 1.1	1.2	1.9	△ 1.4	3.7
	50～51	△ 1.3	△ 2.2	0.6	3.1	16.0	△ 4.3	0.2	△ 7.4	4.5	2.1	2.3	2.0	0.8	2.6
	51～52	△ 2.2	△ 3.2	0.3	5.5	4.6	△ 4.5	3.7	4.0	8.6	1.4	4.6	△ 2.0	5.5	1.7
	52～53	△ 1.5	△ 2.2	△ 0.3	2.9	3.3	△ 1.2	△ 0.3	△ 1.9	5.4	2.8	4.0	1.7	△ 5.2	7.6
	53～54	△ 1.4	△ 2.2	0.6	△ 1.1	3.2	1.2	△ 1.6	1.7	5.1	△ 1.3	4.4	△ 2.8	1.2	3.1

資料：農林水産省「食糧需給表」

表3. 年間収入階層別にみた1世帯当たり1か月間の全消費・食料・主食・米類別支出金額

年間収入階層	項目 全消費支出 金額(A)	うち 食 料		うち 主 食(B)		うち 米 類(C)	
		金 額	エンゲル 係 数	金 額	(A)/(B) 構成比	金 額	(A)/(C) 構成比
	円	円	%	円	%	円	%
100万円未満	110,679	42,731	38.61	5,802	5.24	4,046	3.66
100～120	113,318	42,137	37.18	6,036	5.33	4,205	3.71
120～140	120,085	46,460	38.69	6,449	5.37	4,564	3.80
140～160	133,398	48,916	36.67	6,613	4.96	4,579	3.43
160～180	139,880	50,343	35.99	6,665	4.76	4,620	3.30
180～200	144,710	54,668	37.78	6,977	4.82	4,598	3.18
200～240	158,481	57,076	36.01	6,976	4.40	4,602	2.90
240～280	167,089	59,792	35.78	7,371	4.41	4,758	2.85
280～320	182,883	63,892	34.94	7,597	4.15	4,879	2.67
320～360	195,410	67,585	34.59	7,969	4.08	5,091	2.61
360～400	207,646	70,552	33.98	8,127	3.91	5,172	2.49
400～450	222,573	73,950	33.23	8,517	3.83	5,489	2.47
450～500	240,402	76,954	32.01	8,830	3.67	5,725	2.38
500～550	255,408	79,650	31.19	9,016	3.53	5,858	2.29
550～600	267,265	80,909	30.27	9,048	3.39	5,971	2.23
600～700	293,470	85,987	29.30	9,140	3.11	5,905	2.01
700～800	306,477	88,411	28.85	9,339	3.05	6,095	1.99
800～1,000	345,513	95,990	27.78	9,702	2.81	6,364	1.84
1,000万円以上	406,002	109,944	27.08	10,430	1.84	6,815	1.68

資料：昭和54年全国消費実態調査報告より作成。

表4. 年間収入階層別にみた1世帯当たり1か月間の米購入数量及び購入平均価格－昭和54年－

	全 購 入 数 量	うち 標準価格米		うち 他のうるち米		うち 他の米		全購入平均 価 格(1Kg)
		数 量	構成比	数 量	構成比	数 量	構成比	
	Kg	Kg	%	Kg	%	Kg	%	円
全世帯平均	13.83	1.41	10.20	12.16	87.92	0.26	1.88	385.7
100万円未満	10.81	1.22	11.29	9.36	86.59	0.23	2.13	374.1
100～120	11.27	1.52	13.49	9.59	85.09	0.16	1.42	373.2
120～140	12.26	1.47	11.99	10.51	85.73	0.29	2.37	372.2
140～160	12.32	1.67	13.56	10.27	83.36	0.38	3.08	371.8
160～180	12.31	1.83	14.87	10.25	83.27	0.23	1.87	375.2
180～200	12.31	1.81	14.70	10.36	84.16	0.14	1.14	373.5
200～240	12.26	1.46	11.91	10.59	86.38	0.21	1.71	375.5
240～280	12.71	1.69	13.30	10.75	84.58	0.26	2.05	374.5
280～320	12.76	1.49	11.68	11.08	86.83	0.18	1.41	382.4
320～360	13.35	1.52	11.39	11.64	87.19	0.19	1.42	381.4
360～400	13.48	1.51	11.20	11.73	87.02	0.23	1.71	383.8
400～450	14.19	1.33	9.37	12.60	88.79	0.25	1.76	386.9
450～500	14.72	1.37	9.31	13.03	88.52	0.32	2.17	389.0
500～550	15.16	1.56	10.29	13.30	87.73	0.29	1.91	386.5
550～600	15.44	1.31	8.48	13.82	89.51	0.31	2.01	386.8
600～700	15.02	1.16	7.72	13.52	90.01	0.34	2.26	393.2
700～800	15.35	0.91	5.93	14.04	91.47	0.39	2.54	397.2
800～1,000	15.78	0.98	6.21	14.48	91.76	0.31	1.96	403.2
1,000万円以上	16.34	0.79	4.83	15.29	93.57	0.26	1.59	417.1

資料：表3に同じ。

- (註) 1. 他のうるち米とは、銘柄米、指定産地米、徳用上米などである。
2. 他の米とはもち米、もみ米である。

(2) 地域別米消費構造

表5は、都市・町村及び地方別にみた米の購入数量とその購入平均価格を示したものである。まず、都市・町村別にみると、全購入数量最高の都市は中都市（人口15万以上100万未満の市）14.22Kgであり、逆に最低の都市は町村12.81Kgである。この両都市の差は1.41Kgを示している。また、全購入平均価格（1Kg）の最高地は大都市（人口100万人以上市）とりわけ東京都区部426.7円であり、逆に最低地は、購入数量と同じく町村364.6円であり、その差は62.1円である。量的な面で、町村が低い要因の一つとして、それに多くの米自給農家群が含まれるためと推測される。さらに、地方別にみると、全購入数量の最高地方は北海道16.50Kgであり、逆に最低地方は四国地方12.53Kgである。その差は3.97Kgで、都市・町村別の場合よりも著しいものがある。また、全購入平均価格の最高地方は近畿401.2円であり、逆に最低地方は沖縄210.2円である。その差は実に191円である。すなわち、都市化が深まる地帯になればなるほど、購入数量が増えるとともに、他のうるち米（銘柄米、指定産地米等）へのより一層の特化が進み購入平均価格も高くなっていることを示しているものである。

表5. 地域別にみた1世帯当たり1か月間の米購入数量及び購入平均価格－昭和54年－

	全 購 入 数 量	うち 標準価格米		うち 他のうるち米		うち 他の米		全購入平均 価格 (1Kg)
		数 量	構成比	数 量	構成比	数 量	構成比	
全 国	Kg	Kg	%	Kg	%	Kg	%	円
全 都 市	13.83	1.41	10.20	12.16	87.92	0.26	1.88	385.7
人口5万以上の都市	14.07	1.40	9.95	12.45	88.49	0.22	1.56	390.1
大 都 市	14.11	1.38	9.78	12.53	88.80	0.21	1.49	392.5
東京都区部	14.00	0.80	5.71	13.03	93.07	0.17	1.21	412.9
中 都 市	13.45	0.44	3.27	12.86	95.61	0.16	1.19	426.7
小 都 市 A	14.22	1.75	12.31	12.25	86.15	0.22	1.55	384.2
小 都 市 B	14.07	1.48	10.52	12.35	87.78	0.24	1.71	381.0
町 村	13.66	1.63	11.93	11.70	85.65	0.33	2.42	366.9
	12.81	1.45	11.32	10.93	85.32	0.43	3.36	364.6
北 海 道 地 方	16.50	2.05	12.42	14.02	84.97	0.43	2.61	382.5
東 北 地 方	13.76	3.44	25.00	10.00	72.67	0.32	2.33	348.0
関 東 地 方	13.69	1.11	8.11	12.31	89.92	0.26	1.90	401.1
北 陸 地 方	13.93	2.00	14.36	11.35	81.48	0.57	4.09	366.2
東 海 地 方	15.09	1.65	10.93	13.25	87.81	0.18	1.19	378.0
近 畿 地 方	13.51	0.90	6.66	12.44	92.08	0.17	1.26	401.2
中 国 地 方	12.28	1.36	11.07	10.69	87.05	0.23	1.87	373.5
四 国 地 方	12.53	1.31	10.45	11.02	87.95	0.20	1.60	376.9
九 州 地 方	13.68	1.34	9.80	12.06	88.16	0.28	2.05	375.6
沖 縄 地 方	13.08	0.00	0.00	12.97	99.16	0.11	0.84	210.2

資料：表3に同じ

- 注) 1. 大都市－人口100万以上の市
2. 中都市－人口15万以上100万未満の市
3. 小都市A－人口5万以上15万未満の市
4. 小都市B－人口5万未満の市
5. 人口5万以上の都市－大都市、中都市、小都市Aに含まれる市をまとめたもの。
6. 大都市－人口5万以上の都市に小都市Bを含めたもの。

(3) 世帯主の職業別米消費構造

表6は、世帯主の職業別にみた米の購入数量とその購入価格を示したものである。これによると、全購入数量最高世帯は個人営業世帯、とりわけ個人経営者16.85Kgであり、逆に最低の世帯は、職員世帯なかでも民間職員12.57Kgである。この両世帯の差は実に4.28Kgを示している。また、全購入平均価格(1Kg)の最高世帯は法人経営者406.5円であり、逆に最低世帯は労務者376.1円であり、その差は30.4円である。すなわち、全購入数量及び購入平均価格ともに、経営者層になればなるほど高くなり、逆に雇われ者層になればなるほど低くなっているのである。いわゆる労使間の消費格差を物語るものである。

表6. 世帯主の職業別にみた1世帯当たり1か月間の米購入数量及び購入平均価格－昭和54年－

	全購入数量	うち 標準価格米		うち 他のうるち米		うち 他 の 米		全購入平均 価格 (1Kg)
		数 量	構成比	数 量	構成比	数 量	構成比	
	Kg	Kg	%	Kg	%	Kg	%	円
全 世 帯	13.83	1.41	10.20	12.16	87.92	0.26	1.88	385.7
勤労者世帯	13.17	1.43	10.86	11.51	87.40	0.24	1.82	383.9
労 務 者 世 帯	14.04	1.79	12.75	11.96	85.19	0.28	1.99	376.1
職 員 〃	12.59	1.18	9.37	11.20	88.96	0.21	1.67	389.7
民 間 職 員	12.57	1.12	8.91	11.26	89.58	0.19	1.51	392.6
官 公 職 員	12.63	1.30	10.29	11.08	87.73	0.25	1.98	383.8
一 般 世 帯	15.29	1.38	9.03	13.60	88.95	0.30	1.96	389.0
個人営業世帯	16.37	1.56	9.53	14.51	88.64	0.30	1.83	386.5
商 人・職 人	16.30	1.61	9.88	14.38	88.22	0.31	1.90	384.6
個人経営者	16.85	1.28	7.60	15.32	90.92	0.25	1.48	397.9
法人経営者	15.02	0.80	5.33	13.90	92.54	0.32	2.13	406.5
自 由 業 者	12.97	1.05	8.10	11.73	90.44	0.19	1.46	399.6
その他の職業	13.76	1.28	9.30	12.21	88.74	0.27	1.96	381.6
世帯主長期不在	14.70	1.66	11.29	12.70	86.39	0.34	2.31	377.1
無 職	12.60	1.23	9.76	11.00	87.30	0.36	2.86	385.9
有業人員無し	11.78	1.15	9.76	10.33	87.69	0.30	2.55	384.8

資料：表3に同じ。

以上のことは、世帯における米消費構造が階層的に、地域的に、さらに職業的にそれぞれ大小の格差があり、前述した食生活の平準化の表現が世帯における米消費構造の現状については適当でないことを物語るものである。この格差は、国民の所得などについての地域格差が大きく、同一の地域でも、とりわけ勤労者の場合には企業間、産業間、労職間での賃金の格差が大きいことがその主たる要因となっているものである。